

Smile

FREE MAGAZINE

2023 夏号

NO.036

2023.7.1 発行

TOPICS

- CFCについて考えよう！
- ねこにやさしい病院を目指して

TOPICS

NO.036

[特集1]

CFCについて考えよう！…3

[特集2]

ねこにやさしい病院を目指して…16



◇Wellness Salon cocoe
クリニック通信…10

◇NEWスタッフ紹介…12

◇Wellness Salon cocoe
サロン通信…21

◇絆プロジェクト活動報告… 22

◇原宿犬猫クリニック通信
～イベント報告～… 26

◇宮古島だより
～祝 開院10周年～… 28

【特集1】

CFCについて考えよう！

皆さんのおうちにはわんちゃんがいるですか？それともねこちゃんでしょうか？

いや、うさちゃんなんておうちもあるでしょうか？全員いますよ！というおうちもあるでしょう。

今回はその中でもねこちゃんにクローズアップしていきます。

まずはねこちゃんがどのような動物かをおさらいしていきましょう！



猫ってどんな動物？

1

優れた感覚能力、身体能力

人に比べて聴覚や嗅覚が優れています。人には感知できない音やにおいを感知していることがあります。また、暗いところでもモノが見える視力を持っています。



2

捕食・接触行動

本来単独で狩りを行い、しとめた獲物を自分だけで食べる動物です。誰かとご飯を分け合うことは本来の習性ではありません。



5

コミュニケーション行動

ねこちゃんのコミュニケーションは視覚や嗅覚によるものがメインとなっています。ボディランゲージはわんちゃんよりも控えめなので、しっかりと把握しておくことが重要です。

3

綺麗好き

排泄の場所には特にこだわっています。トイレ環境を快適に整えることはとても重要な行動とされています。また、毛づくろいは一日の大半を費やすほど丁寧に行っています。



4

縄張りと社会行動

基本的には単独で生活するねこちゃんですが、物資が豊富な場所では他のねこちゃんと一緒に暮らすこともできます。ですが単独行動が多いゆえに、警戒心が強く恐怖や不安を感じやすい繊細な動物です。





CFCってなんだろう？



繊細なねこちゃんにやさしい動物病院の“道しるべ”として

isfm（国際的な猫のチャリティ団体）によって確立された国際基準の規格のことです。

動物病院内での設備・機器などに関して、数多くの厳しい基準を満たした病院のみが認定されます。

CFCの3つの柱

Cattitude

スタッフ全体がねこちゃんの立場を尊重し真摯にねこちゃんのご家族に接すること



猫医療に関する

進歩に対応

セミナーや学会に参加し、継続して専門的能力の向上に努めること



病院の設計

及びレイアウト

最善の治療を施せるように適切な検査機器や施設、器具類を備えること



そのほかにも、

- ・猫の扱いを知っている
- ・猫のために可能な限りの予防医療をきちんと推奨する
- ・キャット・フレンドリーの精神を備えること
- ・猫がにおい・音・光に敏感であること理解し、環境を整備すること
- ・猫のボディランゲージを理解していること
- ・猫の保定には必要に応じて厚手のタオルなどを使用すること
- ・猫の視点に立って環境を検討すること
- ・猫専用の待合室を設ける（犬と猫が互いに視界に入らないようにする）
- ・猫に適した体温計や血圧計、体重計などの機器類の完備
- ・猫に関連する情報を詳細に記したカルテの作成
- ・顕微鏡やレントゲン撮影装置、血液検査機器、尿化学分析を行うための機器がそろっていること

etc...



JAMC施設案内 ～ 診察室まで ～

ねこちゃんは病院に入ると、その環境が自分にとって安全であるかを見極めようとしています。

待合室が一番最初の環境になりますので、危険や恐怖を感じにくく努めています。

この時、キャリーを床に置くと、襲われてしまう恐怖を感じることもあるため、

椅子の上やテーブルの上に置いてあげてくださいね。

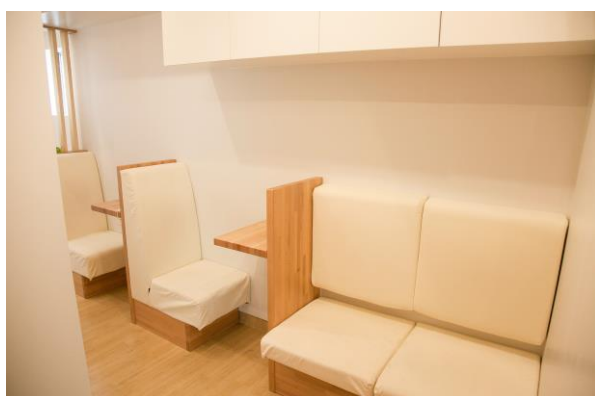
ここがPoint!

JAMCにはねこちゃんとうさぎさん専用の待合室があります。

完全個室とはいきませんが、わんちゃんと別のスペースにすることで、警戒心を和らげます。

さらに、受付も入ってすぐの場所にあるため、ほかの動物とは接触しにくい設計になっています。

待合室から診察室のある3階へ



3階はねこちゃんとうさぎさんしか立ち入らない場所です。

診察でお呼びするまでは、こちらでおやつなどをあげながらリラックスしてお待ちください。

他の猫ちゃんとの接触で警戒することを避けるために、キャリーからはまだ出さず、声をかけたりして安心させてあげましょう。

※うさぎさんの待合スペースはうさぎさんに譲ってあげてね!



JAMC施設案内 ～ 診察室 ～

JAMCの診察室は、落ち着いて診察できるだけでなく、ねこちゃんが怯えないような工夫を凝らしています。

ねこちゃんが落ち着いて診察を受けられるよう、落ち着いた照明とエアコンを完備しています。

扉は完全に閉まります。
室内にはキャットウォークもあり診察中に部屋の中を自由に歩き回ることもできます♪

ステンレスの体重計は滑りやすく、ねこちゃんがびっくりするので、ゴムマットを敷いています。

処置をするものはすべて引き出しの中へ。
万一の時にねこちゃんがけがをしないように最低限のものを出しています。
ソファの下には秘密の隠れスポットを用意！
箱があったら入りたくなるねこちゃんの為にちょうどいいサイズの箱が置いてあります♪



フェロモンについて

フェロモンとは人間には感じることはできないねこちゃん特有のコミュニケーションです。ある種のおい物質によるコミュニケーションであり、非常に重要なものとされています。ねこちゃんであれば年齢、猫種に関係なく、このフェロモンを理解することができるのです。

ねこちゃんの身体にはこのフェロモンを放出する臭腺が数多く存在します。それぞれの臭腺から異なるフェロモンが出ているんですよ。

- ・家具に頭をこすりつける
- ・他のねこちゃんに頭をぶつける
- ・ご家族に体を擦り付ける
- ・縄張りにマーキングのおしっこをつける

これらの行動はフェロモンによってメッセージを共有するために行ったものです。

知らないうちにご自身が「これはぼくのお気に入り！」なんてねこちゃんに主張されているかもしれませんね。



フェロモンは様々な化学物質で構築されており、組み合わせによってメッセージが変わってきます。

では、我々には感じ取れないそのフェロモン、ねこちゃんはどこで感じているのでしょうか？

実はねこちゃんのお口の天井には鋤鼻器（じょびき）という特別な器官があり、そこでフェロモンを感知しているのです。

おうちで過ごしているとき、例えばご家族の足のにおいをかいでねこちゃんがびっくりにしたような顔をしたことはありませんか？

それは**フレーメン反応**と言って、フェロモンを感じ取っている証拠です。

フェロモンのメッセージは

- ・自己紹介（ぼくはこんなねこです！）
- ・ここは調査済み
- ・大好きです！
- ・ここは僕の場所
- ・ハッピーなことが起こる場所だよ
- ・ここは怖い、気をつけて

など様々です。



この中でも特に**コンフォートフェロモン**というものが注目されています。

コンフォートフェロモンというものは**ハッピー**や**リラックス**を伝えるフェロモンであるため、ねこちゃんの警戒心をやわらげ、安心させる役割があります。

JAMCの診察室、入院室にはこのフェロモンを拡散させ、少しでも安心できるように工夫をしています。



おうちに帰ってから

おうちに帰ってからも通院は続いています。

おうちに帰ったら同居のねこちゃんとケンカになってしまった…なんてことはありませんか？

病院に行ったねこちゃんが病院のにおいをつけて帰ると、同居のねこちゃんが病院の嫌な経験を思い出してしまうことがあります。そういった場合は怖くなって攻撃をしてしまうことがあるのです。

においが消えるのを待つために、おうちに帰ったら少しの間は別々の部屋で過ごさせてあげましょう。

会わせる前にお互いのにおいを付けたタオルで撫でてあげてにおいの交換をするとすんなり受け入れてくれることもあります。

試してみてくださいね。



攻撃的になってしまうねこちゃんに



どれだけ対策を講じて、やはり緊張してしまう、病院が嫌いなねこちゃんはどうしてもいます。

そのような子が、病院での検査や処置を必要とするときには、場合によっては抗不安のお薬を使うことがあります。

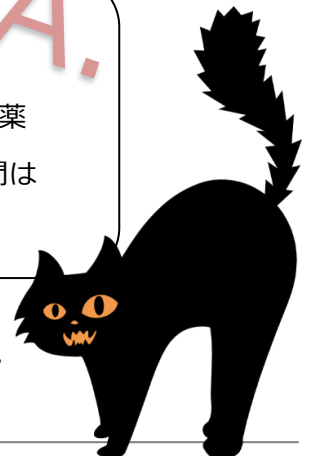
上手に利用して、ねこちゃんの負担を軽くしてあげましょう。

Q. **どんなお薬を使いますか？**

A. **ガバペンチン**という抗不安薬を使います。お薬を飲ませて落ち着いた場所にいると、1-2時間は抗不安効果が得られます。

その他にも、骨折などの大きなケガをした時は、痛さから威嚇や攻撃をし続けることがあります。

そのような場合には鎮静のお薬を使うことがありますが、必ず獣医からの説明があります。





キャリーについて

ねこちゃんは不慣れな場所が苦手です。

特に成猫になると警戒心が強くなっていきます。

病院に行くという“嫌なこと”をするときにキャリーに入れられるとキャリーと“嫌なこと”が容易に関連づいてしまいます。

まずはキャリーに慣れてもらい、そのあとはキャリーに入ったまま少しお散歩してみましょう。

「キャリーに入ること」で「病院に行くこと」だけでなく「お外でお散歩をする」選択肢を増やしてあげることで、キャリーに入ることを嫌がらなくなります。

また、お散歩をする際にはおやつをあげたり（ご褒美の“あのおやつ”なんかもいいかも？）、普段見たり聞いたりしないものに触れる良いチャンスです。

繊細な動物とはいえ、刺激に触れさせないことは刺激に弱い子にさせてしまう要因になってしまうことも。

適度に良い刺激を与えてストレスに強い子を育てることはねこちゃんの負担を減らす方法になります。



キャリーについても考える

キャリーは常にねこちゃんの行動範囲に置き、縄張りとしてもらった方がよいでしょう。

ねこちゃんは自分がすっぽり入って身を隠せるものや、丸くなったときにちらりと外がのぞける状態を好みます。

また、扉が狭いキャリーは、ねこちゃんをお外に出す際に出しづらく、余計なストレスをかけてしまうことがあります。

- ・ 上部が開くタイプ
- ・ 開く部分はいつも使っている毛布やタオルをかける

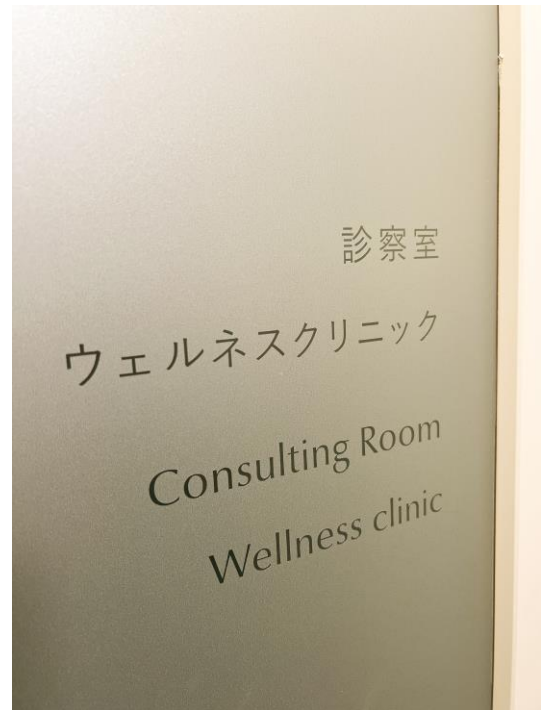
このような工夫をすることで、病院に連れて行けそうですね！！

このように、ねこちゃんに負担をかけない工夫はたくさんあります！
病院に来るためにはご家族の協力が欠かせません。
疑問や、ご不安なことがあればいつでもお話しください。



連載 第2回 Wellness Salon cocoe クリニック通信

「ねこちゃんという生き



みなさん、こんにちは。

ウェルネスサロンcocoeの院長をしております獣医師の富田です。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、現在犬の飼育頭数は減少傾向で、今後も減り続けることが予想されています。

猫の飼育頭数は維持され、ついに猫の飼育頭数が犬と逆転したという現状になっています。

しかし、病院を見渡すと犬が多く、予防医療（ワクチンや予防）と定期健診がセットになったウェルネスプランの加入も猫はとても少ない現状です。

「猫は多いはずなのに、病院ではあまりみかけない」これはどういうことなのでしょう。

私も自宅に白黒のハチワレ模様の高齢猫を飼っていますが、まずケージに入らない。

ケージに入れるとすごい声で鳴きまくる、そして病院ではシャーシャー怒り、帰宅後は人間不信となり寄ってきてくれない。

そんな、ねこちゃんの通院ストレスをご心配されている方が多いのではないかと思います。



猫の平均寿命が14歳前後と発表されていますが、

「食が細くなるのは、そろそろシニアだから」「吐く回数が多くなったけど、小さいころから吐くことはあったから」体調不良をうっすら感じている、大丈夫だろうというバイアスが働き、いざ来院までにお時間を要することがあるかもしれません。お気持ちはよく分かります。

猫の好発疾患である、「腎不全」「甲状腺機能亢進症」「リンパ腫」

「膀胱炎」などは、急激というより、僅かな異変として始まり進行することが多い印象です。

早期発見、早期治療ではありませんが、「目を背けられない程、確実に病的だ」というラインより少しでも早く連れてきていただきたい！病院スタッフはそんなジレンマを抱えています。

そのために、在宅で猫の体調が分かる方法。

例えば、おしっこを取って病院に持ってきていただければ、腎不全に関する尿比重や蛋白尿、膀胱炎の有無など情報が得られ、次の検査に進む必要があるか判断できます。



また、最近ではIoT首輪やトイレの開発により、体重の変化、食事量、運動量、排尿回数など細かなライフログが集められるようになってきました。

それにより、毎日見ていると気づきづらい体重の増減や、お皿が空になったら何となく注ぎ足していた食事の量、お仕事など不在だと分からなかった排尿回数などが数値として把握できるようになります。

排尿回数の増加、体重減少などが一定の異常ラインに達したらご家族様にアラートが届いたり、ダイエットの効果判定が目視できたり。

また、通院して処方薬服用後に、膀胱炎による排尿回数が改善しているか、関節炎の痛み止めが効いているか、そんなことも確認できるようになります。

その記録を基に、獣医さんと診療で対話を行う。また、将来的に遠隔診療により自宅からパソコンやスマートフォンで診療を受けられるようになれば、「来院のストレス×早期診断のジレンマ」を改善できるのではないかなど日々、考えております。



そして、猫のフードも犬と同様、オーガニックやグレインフリー、添加物への配慮から始まり、ヒューマングレードの手作り食に近いものまで、より意識の高いものがリリースされ、ご家族様の需要とマッチし、プレミアム一般食と呼ばれるカテゴリの市場は賑わいをみせています。



当院では、ISFMという世界規格の協会から、猫に優しい病院の「cat friendly clinicゴールドレベル」を取得し、「CATvocate」という猫の専任従事者の認定資格を取得したスタッフを備えています。



また、トリミングサロンでは怒りんぼさんの猫、高齢で持病がある猫でもお断りすることなく、安全にトリミングを実施しています。

国家資格を持つ愛玩動物看護師も在籍するため、小さなしこりや体調変化に気づいたり獣医師の連携体制もばっちりです。

猫のトリミングも従来のバリカンカットに加え、毛の長さやデザインのアレンジも多いシザーカットを開始しており、猫に優しいサロンになっています。



待合室や診察室は他の動物と動線を分けているため、病院が怖い場所ではない、そして定期健診により、かけがえのない家族が一日でも健康で美しく、長生きしてくれることを叶えたいとスタッフ一同、願っております。

「ウェルネスサロンcocoe」は完全予約制で、小さな疑問や生活のアドバイスなど、検診や予防医療も含めご相談に応じています。

自宅ですること、病院ですること。ねこちゃんが健康であるために、是非ご活用いただけますと幸いです。

また、「猫の健康を維持するには、こんなアイデアやツールがあると思う！」など猫を愛するご家族様ならではのアイデアがあれば、是非スタッフに教えてください。

ねこちゃん、ご家族様にとって幸せな生活がご提供できますよう、日々検討して参ります。

是非ウェルネスサロンでお話しましょう。ご来院をお待ちしております。

2023年度 NEW FACE

本年度もJAMC（日本動物医療センター）に
新しい仲間が増えました☆
それぞれの自己紹介も兼ねて、下記の内容を
インタビューしてみました♪

【質問】

- ①この仕事を選んだきっかけ
- ②うちの子or推しの子紹介
- ③JAMCでの抱負

01

愛玩動物看護師

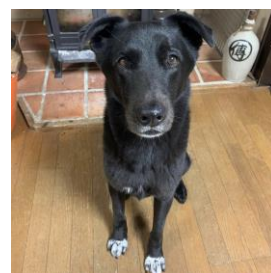
コウ 織美亜



①幼い頃から動物が好きで、動物と関わる仕事に就きたかったからです。

② 実家で飼っているジャッキーです！
甘えたい時はとことん甘えて、気分じゃない時はガン無視する猫みたいな性格のわんちゃんです。

③ご家族様と動物たちにとって何が一番良いのかを考えて行動できるような看護師になれるよう頑張ります！



02

愛玩動物看護師

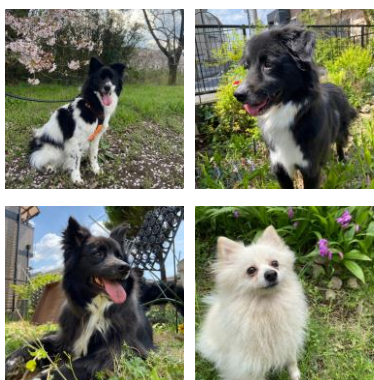
宮崎 帆乃美



①小さい頃から動物が好きで動物に携わる仕事がしたいと考えていました！

②ボメラニアンのももちゃんと雑種3匹です！みんな食い意地が張っていて毎日ご飯の取り合いです笑

③動物やご家族様に寄り添った看護師になれるよう精一杯頑張ります。よろしくお祈りします！



03

獣医師

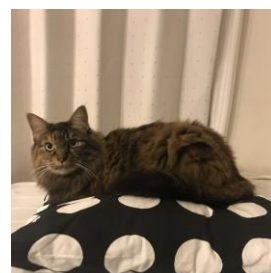
大日方 志帆



①実家で犬を飼い始めたことがきっかけで動物が好きになり、気が付いたら目指していました。

②保護猫のクロエ(6歳)です！甘えん坊のかわいい女の子です！

③人と動物を繋ぐ、頼れる獣医師になれるよう、精進していきます！



0

愛玩動物看護師

澤井 帆渚



①幼稚園の時にいろんな動物に囲まれ、触れ合っていた頃から動物が好きですと動物に携わる仕事がしたいと思っていました。

②実家にハムちゃんズがいて、卒業した専門学校から引きとった、今年で11歳になるジャックラッセルのマーヤです！2人で生活しています！

③JAMCのスタッフにもご家族様にも頼ってもらえる、寄り添える動物看護師になれるように頑張ります！



0

メディカル
コンシェルジュ

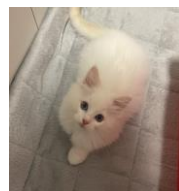
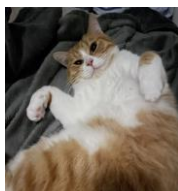
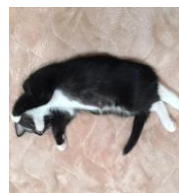
重信 あみ



①小さい頃から多くの動物と暮らしており、動物病院は身近な存在でした。そんな中飼っていた猫を病気で亡くし、もっと早く異変に気づき、してあげられることはなかったのかという後悔の気持ちから、自然とこの職業を目指すようになりました。

②自宅に猫が4頭います。雑種、シャム、マンチカン(足長)、ラグドールと色々な種類を飼っています。みんなかわいいです♡

③人にも動物にも温かく寄り添える存在になりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！



0

愛玩動物看護師

大西 麻友



①小さい頃から動物と一緒に過ごしてきて、ずっと大好きな動物たちに関わる仕事に就きたいと考えていました。

②ミニウサギのココアです！撫でられるのが大好きでそばにいくと撫でて攻撃がすごいです♡もう今年で7歳なので、もっともっと長生きして欲しいです。

③動物さんやご家族様も不安な中JAMCに来て頂く事が多いと思うので、少しでも安心を提供できるように精一杯頑張っていきたいです。



0

獣医師

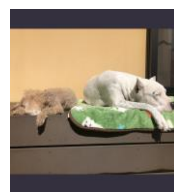
村上 亞彌



①小さな頃から動物が大好きで、動物に携わる仕事に就きたいと思っていました。

②先代のアルマ(トイプードル)とエル(ドグアルベンティーノ)、そして今実家で暮らしているアンヘル(ワイマラナー)です。エルは優しく天使のような子だったため、アンヘル(スペイン語で"天使"と名づけました。

③動物たちは私たちにたくさんの幸せをもたらしてくれます。大切にご家族様との幸せな時間を少しでも多く過ごしていただけるように、尽力していきたいと思います。



08

愛玩動物看護師

加藤 佑香



①元々動物が好きで、動物に関わる仕事がしたいと思っていました。自分の家の子たちを動物病院に連れていくうちに動物看護師という仕事があることを知り目指すようになりました。

②チワワと雑種猫を飼ってます。名前はチワワは「みるく」、猫が「ナスラ」といいます！みるくは叔母さんの家の子から産まれた子を引き取りました。ナスラは小笠原の野良猫を引き取るというプロジェクトで出会いました。



③動物とご家族様に寄り添えるような看護師になりたいです。その為に日々学んだことをしっかり身につけられるよう頑張ります！

09

メディカル
コンシェルジュ

土居 駿哉



①家で飼っていたうさぎを助けてあげられなくて不甲斐なく感じたからです。

②ポーターコリーのゆずです。まだ、3ヶ月なので元気もりもりなのが今の悩みです(笑)

③早く、仕事に慣れてご迷惑をおかけしないでいられるように頑張りたいと思います！



10

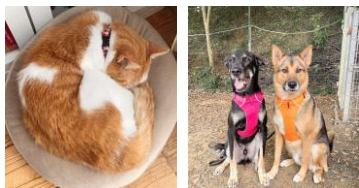
メディカル
コンシェルジュ

鵜沢 めぐみ

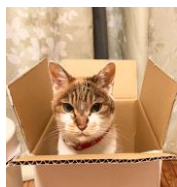


①動物のために何かできる職業に就きたいと考えていたからです！

②今年で5歳のやんちゃ犬たちと、17歳のおばあさん猫たちと暮らしています♡



③人からも動物からも信頼される動物看護師になれるよう、毎日明るく頑張っていきたいです！



11

獣医師

藤原 正博



①小・中学生時代に、たくさんの動物に囲まれた暮らしを経験し、そのころから動物が好きだったことが一番のきっかけです。

②3歳のおてんばゴールデンレトリバー、レディちゃんです！30kgという大きさでも、まだ抱っこが卒業できません。

③動物とご家族様がともに安心して暮らせるよう、そのサポートができる獣医師を目指して日々精進します。よろしくお祈りします。



1

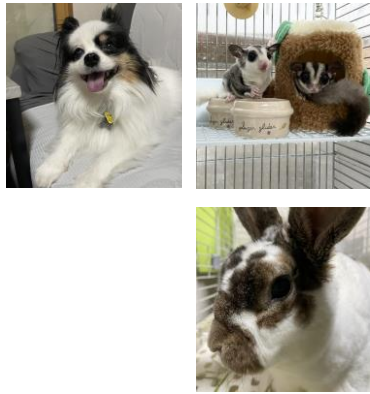
メディカル
トリマー

松崎 ひかり

①小学生の頃に愛犬を迎えたことがきっかけで、トリマーに憧れるようになりました。美しさだけではなく健康面も意識したトリミングができるようになりたいと思い、この仕事を選びました。

②パピヨンのコットン、ミニレックスのマーブル、フクロモンガのクルミとナッツがいます。コットンとマーブルは共に11歳になりましたが、まだまだ元気いっぱいです。

③その子の健康面を考慮したトリミングができるようになり、ご家族様が安心して動物を預けられるようなトリマーになりたいです。



1

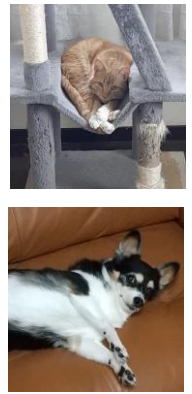
獣医師

中村 圭吾

①小学生の頃、初めて愛犬を亡くしたときに、自分の手で何かしてやれなかったのかと悔しく思ったのが獣医師を志したきっかけです。そのときからこの仕事への気持ちは変わらずあったため、選びました。

②チワワ×コーギー Mixの姫と、昨年迎え入れた元外猫のしまじろうです。姫は今15歳ですが大きな病気はなく、頑丈さに驚かされます(笑)しまじろうは僕にとって初めての飼い猫で、圧倒的犬派だった僕に猫の良さを気づかせてくれた素敵なおです。

③ご家族様や動物たちの立場に立つことを心がけ、安心を提供できる獣医師になれるよう一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



新たに加わったメンバーとともに
引き続き、24時間診療・看護を提供し続けていきます！
皆様が安心して来院できる病院づくりを
これからも目指していきます(^^♪



【特集2】

ねこにやさしい病院を目指して

本格的に暑くなってきましたね！

海水浴やバーベキュー、キャンプなどアウトドアアクティビティが楽しいこの季節、人も動物も熱中症には気を付けて楽しく過ごしましょう♪

そしてこの時期と言えば一つ注意しなければならないのが「脱走」です。

暑くて窓を開けておく方も多いと思いますが動物が脱走したり落下したりする事故が増える時期でもあります。

特にねこちゃんは上手に爪をひっかけて網戸を開けてしまう子もいるので、網戸にロックをつける、留守中はケージに入れてもらうなどで対策しておくとう安心です。

脱走上手なねこちゃんたちですが、入院中はどんな環境に居てどんなふうに過ごすのか気になりませんか？

今回はねこちゃんの入院環境を少しだけご紹介します。



◀ 猫舎

猫専用の入院舎で他の動物とは会わないようになっています。
正面がステンレスケージ、左側に特別室があり入院動物が向かい合わせにならないよう・お互いの顔を見なくて良いように配置されています。
特別室は主にホテルでのお預りに利用します。



ステンレスケージは猫の体の大きさや病態に合わせて二部屋繋げることも可能です。大きな子や普段ケージに入る機会がなく狭い場所がストレスとなってしまう子などはお部屋を広くすることもあります。▼

猫舎へ入る扉には細い覗き窓がついており、開ける際に猫ちゃんがケージから出ていないか確認してから開けることができます。
(脱走の予防)



入院時のお部屋 その1



▼ 特別室

窓のついている広いお部屋です。ホテルで主に使用されますがこちらも部屋同士をつなげることが可能で上下に繋げて昇り降りができるようにしたり、高齢でジャンプが難しい子は左右で繋げて部屋を広くしたりします。写真は院内ネコののらくろ君。

サクラの時期は窓からお花見を楽しんでいるねこちゃんも見られます。





◀猫ICU(集中治療室)

左側が酸素ユニット、右側がステンレスケージ。

人の出入りに敏感なねこちゃんにストレスを与えないため、また状態の不安定な子が多いため、部屋の外からでも常に見えるように部屋はガラス張りになっています。



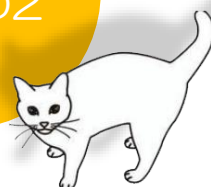
◀そしてICUの目の前は看護師が主に使うナースステーション(ごはん場)があります。各チームの入院を担当する看護師3人がご飯を作ったり、湯たんぽを温めたりと人の出入りが多いためいち早く異変に気付くことができます。

そして奥の黄丸で囲ったところはエマージェンシールームで、緊急対応がすぐにできる空間になっています。

急変や悪化があった時にすぐに対処できるように隣に併設されています。



入院時のお部屋 その2



◀酸素ユニット

ねこちゃん用はA・B・Cルームで3部屋あります。

一部屋ずつ細かい設定が可能で

「酸素濃度」「温度」「湿度」「換気量」

などを調整することができます。

その子の呼吸状態を含めたバイタルサインによってカスタマイズしていきます。

体が大きい子の場合がBとCを繋げて大きなお部屋にすることも可能です。

ねこちゃん専用入院舎と説明しましたが実はこの猫ICUにたま～にうさぎさんが入院していることがあります。

うさぎさん専用入院舎もありますが、ICUは犬と猫にしかなく少し離れたところにお部屋があって巡回して看護を行っているため状態の心配なうさぎさんはこのお部屋に移動してくることがあります。

入院になってしまった時…

人間だって入院すると環境が変わって眠れなかったり、不安でリラックスできなかったり大変ですよ。

ねこちゃんたちは特に緊張屋さんな子が多く、ご飯を食べなくなる子、おしっこを我慢してしまう子、警戒して眠れなくなってしまう子など様々です。

そんなねこちゃんたちに少しでもリラックスしてもらえるように、

ちょっとでもお家に近い環境にしてあげられるように色々な工夫をしています。



◀ トイレ

身体の大きさに合わせて3種類用意しています。

ご自宅でもトイレにこだわりがある子も多いですよ。

砂の量を調整したり配置する場所を考えたり排尿を我慢しなくて済むようにねこちゃんの様子を見て決めます。

入院時の工夫 その1

▼ 食器類



陶器製

陶器はねこちゃんが好む素材でこのお皿でしかお水飲まない！なんて子もいます。写真のものはリバーシブルで使えて浅い面と深い面に分かれています。浅い面はお鼻の短い種類の子たちが使いやすい形状でお皿を変えると途端に食べてくれることもあります。



ステンレス製

清潔に保ちやすく割れたりしないので動物が傷つくことはありません。お皿のふちにひげが当たるのを嫌がる子がいるため、その場合は左側の浅いものに変更します。



プラスチック製

食器の角度を変えることが出来るタイプでどんな角度にしてもフードが一か所に集まるので食べやすいお皿です。

径が広いのでひげも食器のふちに当たらず快適なのと食器台がセットになっているので少し高さが出てさらに食べやすく滑りにくくなっています。

◀ 扉にひっかけて使える！



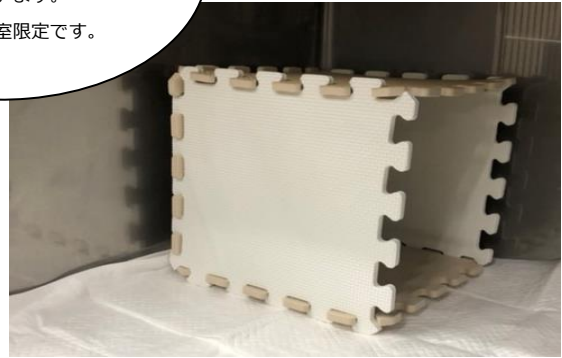
エリザベスカラーをしていると床に置いたお皿から水やご飯を採れないことがあります。他にも首が痛い、立った状態じゃないと口にしない、低い位置から摂食しない子などは食器フックを使用し高さをつけています。

※低い位置の方が摂食しやすい子もいるため使用有無はその子に合わせています。

▼目かくし



○で囲んだ部分はカーテンを挟むことが出来るようにすべての部屋に磁石性のクリップがついています。
ねこちゃんの入院室限定です。



カーテン

緊張が強い子は人の気配がしたり姿が見えると隅の方で固まって動けなくなってしまうことがあります。そんな時は扉にカーテンをかけて個室のようにしてあげるとケージ内で徐々に動き始めてくれます。

※状態が不安定な子や排尿の様子を確認したいときなど入院理由によってはカーテンをかけてあげられない時もあります。

隠れ家BOX

カーテンはつけられないけど安心して隠れる場所を入れたいときに使います。入り口用に一カ所あけてある部分は扉に向かって正面を向かないように(人と目が合わないよう)にして設置します。



入院時の工夫 その2

▼ベッド



ふちがある大き目のベッド

お部屋を広くしてスペースに余裕があるときに入れたりします。



ふかふかの羽毛風ベッド

たたんで敷けばベッドになり中にも隠れられるねこちゃん用のベッドです。



コンパクトに使える毛布を使用した簡易のベッド

スペースがなくても敷いてあげられます。

病院が苦手なねこちゃんが入院中に少しでも安心して過ごせるように、ご家族様が安心して預けられるように日々工夫を重ねています。「お家のような安心感」を目指して良いものはどんどん取り入れていく予定です。
こんな商品あるよ、こうしたらもっといいかも！などご家族様の視線からも教えていただくと嬉しいです。

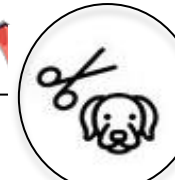
シニア犬のトリミング

シニア犬もシャンプーやトリミングは必要？
 シニア犬のトリミングは負担にならないの？
 病気を持っているのでトリミングが不安…
 など 今回はシニア犬のトリミングについて紹介していきます！
 シニア犬も定期的なシャンプーは必要です！
 シャンプーを行わないと体臭や皮脂が蓄積しフケが出てきたり皮膚炎のもとになってしまいます。トリミングはとても体力を使うので長い時間のトリミングは負担になってしまいますがcocoeではそういう子にも安心してトリミングを受けていただけるように気をつけています。



体調確認

食欲やいつもと様子が違うところがないかなどトリミングに入る前にご家族様にしっかりとヒアリングしています！
 もし体調に不安がある時は診察を行ってから施術することも可能です。



2人でトリミング

1人で立ってるのが大変な子にはトリマー2人でトリミングを行い安全かつ素早く施術を終えられるようにしています。



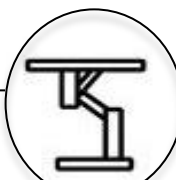
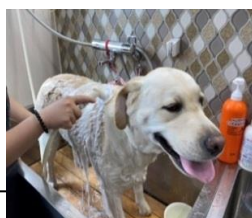
その子にあったトリミングのご提案

全身のカットが難しい子は日常生活で汚れやすいところなどを短くカットしおうちでのお手入れの負担を減らしたりなるべく清潔に過ごせるようひとりひとりに合った内容を提案いたします。



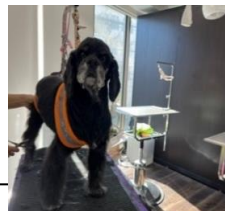
シャンプーマシンの使用

cocoeでは素早く洗えて皮膚にも負担の少ないシャンプーマシンを導入しています。



首や気管に負担にならないような工夫

トリミング中たすきのようにリードをかけたり太いリードを使用し首へ負担がかからないよう施術をしています。





美しく健康で 長生きするために

絆プロジェクトとは

“動物が健康で美しく長生きするためにできること” をテーマに、

動物とご家族が楽しく快適に過ごせますように、動物病院の立場から動物と暮らすことの幸せを改めて感じてもらえるようなイベントを開催していくプロジェクトです。

家族として迎え入れたその時から生涯を全うするまでの大切な時間を、はつらつと笑顔に溢れる時間にして頂きたいと願っております。

動物病院は病気やケガを治すためだけでなく、健康であり続けるための存在でもあります。

多くの方にとって動物病院に足を運ぶのが楽しいと思っただけですと幸いです。

皆さまがどのような悩みを持たれているか、また同じような悩みを持つご家族様同士が悩みを解決するためにコミュニケーションを取れるような場を作りたいと思っております。

check !

『WEB写真展』

定期的にテーマを決め、ご家族様からの素敵なお写真を募集しております。お送り頂いた写真はホームページに掲載させて頂いております。また動画も配信しております。

★web写真展参加特典あり★

2021年より、web写真展に5回ご参加いただいたご家族様には、オリジナルグッズをプレゼントいたします。

check !

『イベントテーマについて』

ご家族様がどのような情報をお知りになりたいか、是非お声をお聞かせください。

皆様のご意見を基に絆イベントを運営して参ります。

アンケートはこちら▶





特集

空から見守ってくれてありがとう展

私達が以前から開催したいと温めていた企画で、今回皆様にリリースすることができ、ご家族様から心に染みるメッセージを頂戴し、とても有難く、感慨深い想いです。

最愛の我が子との別れは、とてもお辛い経験だったと思います。
深く、長く続く悲しみ、後悔を感じている方もいらっしゃると思います。
感じ方や想いは人それぞれです。

こういった場を設けることで、気持ちを誰かに伝えて、少しでも気持ちが前向きになって頂いたり、
悲しみの中から抜け出せないという方は、同じ気持ちのご家族様のメッセージを読んで、
自分だけじゃないと心強く感じていただければと思います。

たくさん我が子を愛した分、たくさんの涙を流して、
ゆっくりとお気持ちが回復して下さることを願っています。

家族になってくれてありがとう。
その愛情は間違いなく、我が子に伝わっています。

私達、日本動物医療センターは病院に来ることがなくなったから、関係が終わりではなく、
ご縁があり出会った動物とご家族様のご多幸を心より祈っております。

日本動物医療センター 絆プロジェクトチーム



～ご家族様から頂いたお声



「空から見守ってくれてありがとう展」に参加させて頂きました。掲載ありがとうございます。参加された皆様の写真や文章、そして自身の文章と我が子達の写真を今一度みて涙が止まりませんでした。改めて動物のパワーを感じました。これからも絆プロジェクトを応援しています。「日本動物医療センター」は動物と人の強い味方ですね。今後ともよろしくお願い致します。



我が家の亡くなった子を想い、涙が出てしまいました。家族の動物を亡くした気持ちは同じ経験をした人同士でないとなかなか共有できないものかなと思っていて、そういう意味で、皆さんの体験談や気持ちを文章で拝見できることは、家族を亡くした人（私もです）にとって前に進む救いにとてもなると思います。ありがとうございました。

涙涙でした。シェアありがとうございました。

こんなに皆様に愛され続けている素敵な子達を拝見して心が温かくなりました。ありがとうございます。



今回、参加させていただき、それぞれのご家族のメッセージを読ませていただくことが出来ました。私も改めて愛猫を想い涙しました。本当に、ありがとうございました。

愛犬が亡くなって一年経ちましたが、まだ気持ちが整理できず、自分自身が投稿することはできませんでした。自分の気持ちに重ねつつ、皆さんのコメントと愛情たっぷりの写真を拝見させていただきました。本当にありがとうございました。

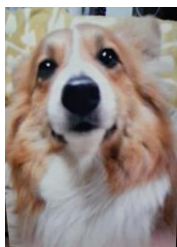
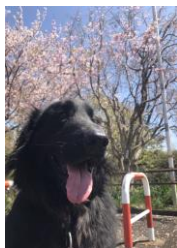


写真展を見て、我が子を思い出して、たくさん涙が出ました。たくさん泣いたら、何だか気持ちがすっきりしました。天国にいる我が子が、喜んでくれているような気がしました。



悲しみの中、心情を読ませて頂き胸が熱く成りました… 我が家も愛猫が虹の橋を渡りました。ただただ、辛く、悲しく涙が止まらず何も出来ません。1週間前からは、付きっきりで一緒に居られる事に感謝を感じ瘦せ細った身体を抱きしめました。明日、お別れかも。と日々緊張状態でした… 最後迄、相談にのって頂いた坂本先生、温かい言葉をかけて頂いた松村先生ありがとうございました! 不安でいっぱいの中、安心感を感じました。頑張った〇〇に恥ずかしく無いように前を向き過ぎて行きます。

皆さんの家族愛を感じ、歴代の子達を思い出しました



我が家の亡くなった子達を思い出して、通院が大変でした。ジーンとしました。今一人になった〇〇が最後で15才、一昨年全身麻酔で歯肉炎でオベ。ありがとうございました。

元気になっています。皆さまによろしくお伝えください。

こんにちは。先月、旅立った〇〇です。1ヶ月半くらいが経ち、自分の気持ちも少しづつ落ち着いてきましたが、〇〇の一生は幸せだったのかな…とか留守番で寂しい思いをさせる時間が多くて申し訳なかったな…とか毎日お線香あげながら話しかける日々です。必ず最期は旅立つのは分かっていたとしても、実際その時を急に迎えたのもあり辛いですが、他の方々も同じ思いだったので伝わる写真ばかりでした。ありがとうございます!

沢山の愛を家族からもらって幸せに旅立っていった子達ですね。昔旅立っていった飼犬のことを思い出させて下さいました。今は悲しみより感謝と幸せで胸がいっぱいで思い出せることに気付かせていただきありがとうございます。

とても素晴らしい企画だと思います。拝見しながら涙が溢れました。皆さん同じ思いで最愛の我が子が別れを告げたのだなと。我が子に対する思いは一生変わりません。お別れというより神様のもとに帰って行ったのを見送ったということでしょうか。みなさんと思いを共有できたことに感謝します。

この企画を知った頃は、見送ってから日も浅く、まだまだ冷静に考えられず参加は見送ろうと思いましたが、元気だった頃に数回色々な企画に参加させていただいて、5回達成して頂いた記念品と、その際に同封されていたメッセージカードを、写真とお位牌そばに飾っていて、僕も参加したいよ!と言われていた気がしました。そんな中だったので、まとまり無い文章になりましたが、参加できてよかったです。

みなさんの投稿も、ゆっくり全員拝見しました。あたたかさやいっぱい感じました。たまにですが、『動物って死んじゃうから悲しいの嫌だから飼わない』という声を耳にする事もありますが、一緒に暮らしていた子を看取することは、本当に寂しいけれど、大事な時間を一緒に過ごして、大好きで大好きで大好きだったから、その想いが生まれると思いますし、寂しさは、もちろんずっと消えませんが、幸せな時間を貰った思い出や、縁あって出会ってくれて家族になってくれた感謝の気持ちは、もっと大きくて、永遠だなーと、改めて思います。この企画、ありがとうございました。〇〇も、喜んでいてと思います!

みなさんの温かい家族愛に感動しました。

～スタッフからのメッセージ～

佐藤亜季野

お家でのかわいい写真と温かいメッセージを共有していただきありがとうございます。
あらためてたくさんの愛に包まれていたんだな、と実感しても温かい気持ちになれました。

相澤優衣

みんなが凄く愛されていたのが伝わってきて感動しました。

大江紗央

一人の飼い主として、一人の獣医師として、皆様の言葉が心に響きました。
隣にいてくれる愛猫をたくさん抱きしめようと思いました。そして、日々、診療で向き合う子達のケガや病気と、ご家族と共に最善の治療ができるよう考えていこうと改めて思いました。

有藤翔平

とっっても愛情のこもったメッセージありがとうございます。拝読させていただき、よりいっそうご家族様、動物たちに寄り添いながら治療をしていく重要性を感じました。これからも初心忘れず、想いをもって安心を提供できるように日々精進して参ります。

與名本輝

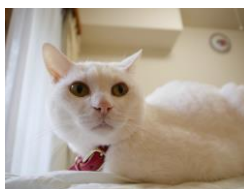
心温まるとも良い企画だと思いました！定期的に開催して欲しいです。

円谷奈緒子

空から見守ってくれてありがとう展にご参加頂きありがとうございます。
大切な家族を見送ったご家族様を、その後何年も経った後も、「〇〇ちゃんのお父さんお母さんどうしてるかな、元気にしてるかな」とふと思うことが度々あります。様々なご事情がありますが、ご家族様が新しい家族を連れて、また笑顔で戻ってきてくれた時。それが一番嬉しく思う瞬間です。

富田夏子

この度は気持ちのこもった投稿をいただきありがとうございます。当院では、朝礼で毎日その日に亡くなった子の全体共有をしています。長い間、外来でや入院で頑張って闘病生活を過ごされた子の知らせを耳にすると、「よく頑張ったね」という気持ちになると共に胸が熱くなります。ご家族様のお気持ちは計り知れませんが、天国に召した子達が笑顔でいつでも空から見えてくれると思っています。
一緒に頑張ったご家族様もどうぞお元気でいらっしやいますように。私達も日々より良い医療、サービスを提供できますよう精進して参ります。



中川舞

ご家族の皆様この度は絆プロジェクトへご参加ありがとうございます。
寂しさや後悔がでてきてしまうのはなによりもたくさんの愛情がある証拠だと思います。ずっと心の中にいて見守ってくれているので、笑顔でお空をみて思い出『ありがとう』をたくさん伝えてあげてくださいね。

古川哲也

たくさんの想いを聞かせていただきありがとうございます。大切な家族の一員である動物たちの声を汲み取り、動物たちが少しでも長く安心した生活が送れるようこれからも動物医療に務めてまいります。また、人と動物が心地よく共生し続けられるよう日々考え続けてまいります。

本間梨絵

皆様と過ごした日々の記憶は、動物たちにとっても必ず残り続けます。皆様のメッセージを拝見し、今日も病院で出会う子たち、そして家に帰ったらいつもいい子で待っていてくれるおうちの子も、もっともっと愛でてあげようと思いました。そしていつでも空を見上げるたびに心を温かくしてくれてありがとうございます、お空組にも伝えようと思います。

瀬尾和馬

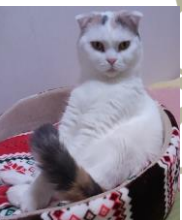
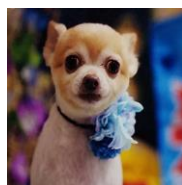
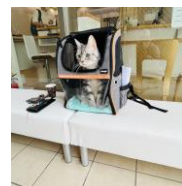
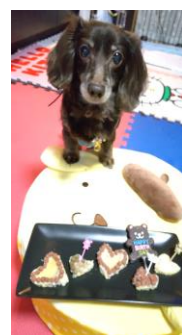
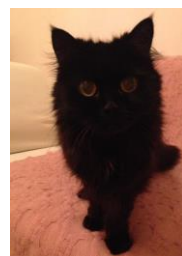
大切な動物たちとの思い出を共有していただきありがとうございます。旅立ったあともこのようにご家族様と繋がりがもてるのはとても嬉しいのでいつでも思い出話をしにしてください。

長沼裕美子

たくさんのかわいい写真、すてきなメッセージありがとうございます。
日々通院や治療をしていただいている中で、ご家族と同じように私たちにとっても皆大好きで特別な子たちです。助けてあげることができず無力感でいっぱいになってしまうこともありますが、お空から見守ってくれていること、とっっても勇気をいただきました。みんながお空で笑顔で、ご家族の皆さんに新しい出会いや笑顔を運んでくれるように、これからも一生懸命頑張ります。

奥田知奈美

さみしい気持ちは一生消えることはありません。ただ我が子といっしょに過ごした大切なひとときを思い出したいと思う日がくるように。またご縁があって私たちもその子とご家族に出会っています、その思いと感謝の気持ちを治療に込めていきます。ずっといっしょに覚えています。



原宿犬猫クリニック通信

今年も多くの心身ともに健康的なワンちゃん猫ちゃん、そのご家族様たちに囲まれて、おかげさまで開院から3年になろうとしています。

ワンちゃん猫ちゃんたちのいる生活は本当にかげがえのないもので、たった一秒でも長く一緒にいたいですね。

そんなしっぽのついたエンジェルたちに感謝を込めて

『ワンちゃんとの幸せについて考える日』

『猫ちゃんと幸せいっぱいの日々を祝う家族の日』

のイベントをおこないました。

2022.11.3

『ワンちゃんとの幸せについて考える日』 イベント内容

☆ **しつけ・お悩み相談** 『イヌのトリコ』さんのプロのトレーナーさんによる個別相談のお時間を。イヌの福祉に則って、科学的根拠に基づいたレッスンをモットーに、イヌとヒトの絆が深まるレッスンを提供して下さっていて、当院に通うパピーちゃんも大変お世話になっています。
詳しくは→ <https://www.inu-no-trico.com/>

☆ **ドイ・ブラック撮影会** 本院でのイベントでもおなじみ、黒の背景を特徴としたカッコいいとおきの写真を、プロの写真家さんに撮っていただきました！

撮影風景。
みんなで楽しく声掛けをして
パシャ！カッコよく撮れたかな？

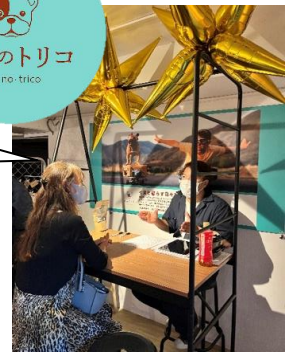
☆ **歯磨き相談** 個別に歯のお悩みを相談しながら、基本的な歯の健康について、歯磨きのコツなど一緒に勉強してみました。

☆ **防災展示** 院内には、いざという時はいつ来るかわからない…防災展示を行いました。皆様メモを取ってくださったり、防災グッズを实际手に取ってもらい、お家での備えを意識してもらうことができたのではないかなと思います。

避難所の場所、これだけでも覚えて帰りましょう！
院内にはお勧め防災グッズも。



お悩み相談中…



『猫ちゃんと幸せいっぱいの日々を祝う家族の日』

☆**撮影会** 昨年度に引き続き、家族写真を撮ってもらいました。
猫ちゃんだけの写真はたくさんあるのに、実は家族みんな揃って
のお写真で少なくないですか？

今年のテーマは『**記念日**』。

院内の壁画を描いてくださって写真家でもある
AYAKOさんに写真館風に撮ってもらいました。

Instagram @yccii__

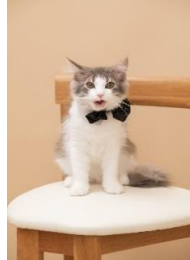
☆世界に一つだけのニャ顔絵

ご希望のお写真に忠実に、かわいく仕
上げてもらいました！

話題のチョークアートです。

ご興味のある方は是非Instagramを覗
いてみてください。

@youbu_world



原宿犬猫クリニックでは、
病気にならないための予防医療や**ウェルネスプログラム**のご案内をして
おります。それぞれの生活環境や年齢、品種や個性、そしてご家族様の
生活スタイルにも合わせ、年間のスケジュールをじっくりと相談しなが
らカスタマイズし、ワンちゃん猫ちゃんが健康に生きるための世界に一
つだけのオリジナルプランを作ります。
ご興味のある方は是非スタッフまでお声掛け下さい。

☆お知らせ

当院院長の本間は2023年7月より、産休に入ります。しばらくの
間お休みをいただきますが、これからも変わらず安心して通院し
ていただくために、グループ内で患者様の経過の引き継ぎをいた
します。本院から獣医師竹田（火曜日・木曜日）と獣医師古川
（土曜日）が常駐いたします。また引き続き金曜日には獣医師島
田、日曜日には獣医師與名本、水曜日は午前中だけの診療ですが、
獣医師加藤がおりますので、ご安心ください。



祝☆開院10周年！！

宮古島だより

麻布十番犬猫クリニック 宮古島分院より

看板もリニューアル！！

2013年に獣医師一人、受付兼ケアスタッフ一人でスタートした当院も 現在では獣医師三人、受付兼ケアスタッフ三人体制で診療を行えるまでになりました。

このような形で十周年の節目を迎えられるのも日頃からご愛顧いただき、動物を大事に考えるご家族様がいらっしゃるからです。心より感謝申し上げます。

これからも宮古島の動物とご家族様の健康で幸せな生活のためスタッフ一同想いをもって診療にあたらせていただきます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようどうぞよろしく願い申し上げます。

院長よりご挨拶



2013年3月14日に開院しました当院もお陰様で十周年という大きな節目の年を迎えることができました。この地で診察を始めて以来多くのご家族様に支えられて十年間続けてこられました。これからも地域に寄り添って、安心の獣医療を提供出来るよう病院スタッフ一同努めて参りたいと思います。

今回は、開院10周年を記念して行った感謝イベントの様をお届け致します。

麻布十番犬猫クリニック宮古島分院
院長 富田翔



麻布十番犬猫クリニック 宮古島分院
住所：沖縄県宮古島市平良字西里 928-1-103
TEL：0980-79-8612
HP：miyako.jamc.co.jp
Instagram：miyako.jamc

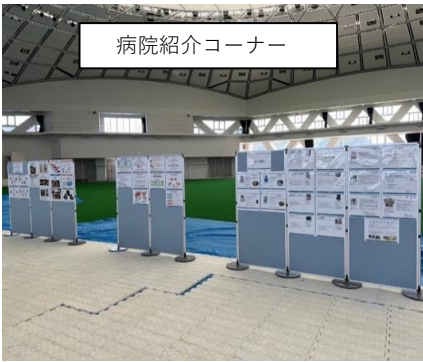
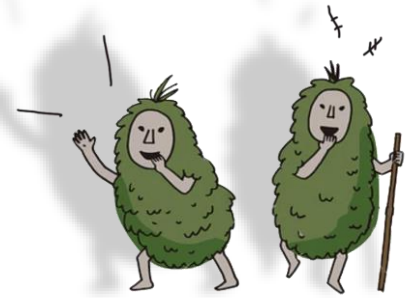


2023年3月12日(日)

感謝イベント開催しました！ @JTAドーム

感謝イベントでは迷子札のワークショップやご家族様からご応募いただいた写真を掲示したフォトコンテスト、獣医師による健康相談コーナー、企業様の商品紹介ブースなど盛りだくさんの内容でお送りいたしました。

沢山の方々にご来場いただき、楽しんでいただく事ができました。

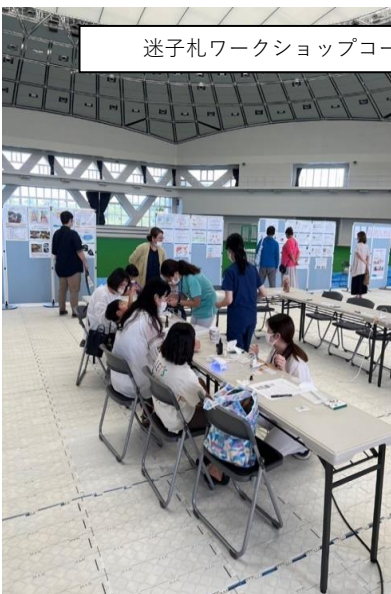


病院紹介コーナー

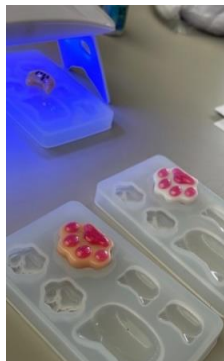


企業ブース

HASABA COFFEE様のご協力の元
ご来場いただいた方々に
美味しいコーヒーをご提供いただきました♪

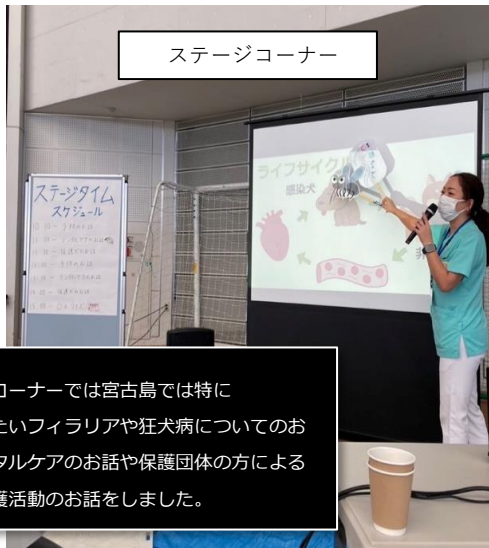


迷子札ワークショップコーナー



レジン液を使って肉球の形や猫の形のオリジナル迷子札を作りました！
大人の方からお子様まで楽しんでいただき
皆さまとても上手に可愛く作ることができました♪





ステージコーナー

ステージコーナーでは宮古島では特に
気をつけたいフィラリアや狂犬病についてのお話
やデンタルケアのお話や保護団体の方による
犬猫の保護活動のお話をしました。



健康相談コーナー



フォトコンテストコーナー

ご来場いただいた皆様に投票いただき投票数の多かった
お写真順に順位つけてフォトコンテストを行いました！
可愛いお写真ばかりで、ご来場いただいた方々は写真選びに
苦戦されていました(笑)



動物〇×クイズ

イベントの最後に行った動物〇×クイズでは、動物の知識や予防医療のクイズに
ついてのクイズや、院長の好きな食べ物のクイズなど(笑)
豪華賞品をかけて大盛り上がりでした！
沢山の方々にご参加いただき楽しんでいただけてよかったです♪



豪華景品のダイソン掃除機をゲット！！おめでとうございます☆



保護動物コー

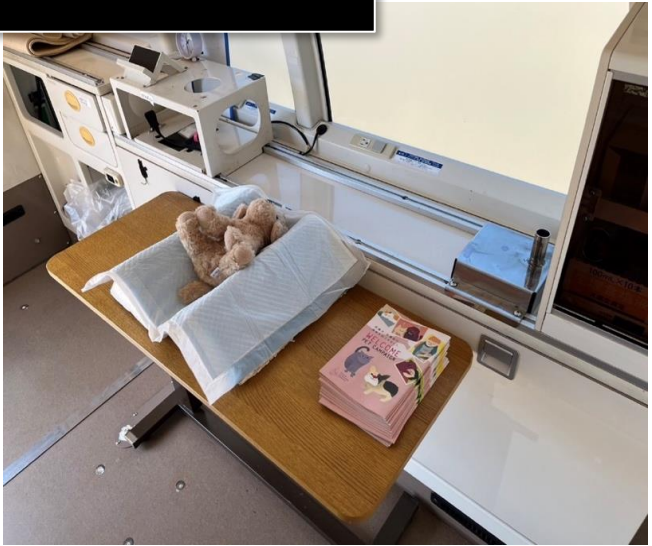


宮古島動物病院が活動している救急車の中の様子です。保健所に収容された犬や野良猫などの避妊去勢手術をここでを行っています。

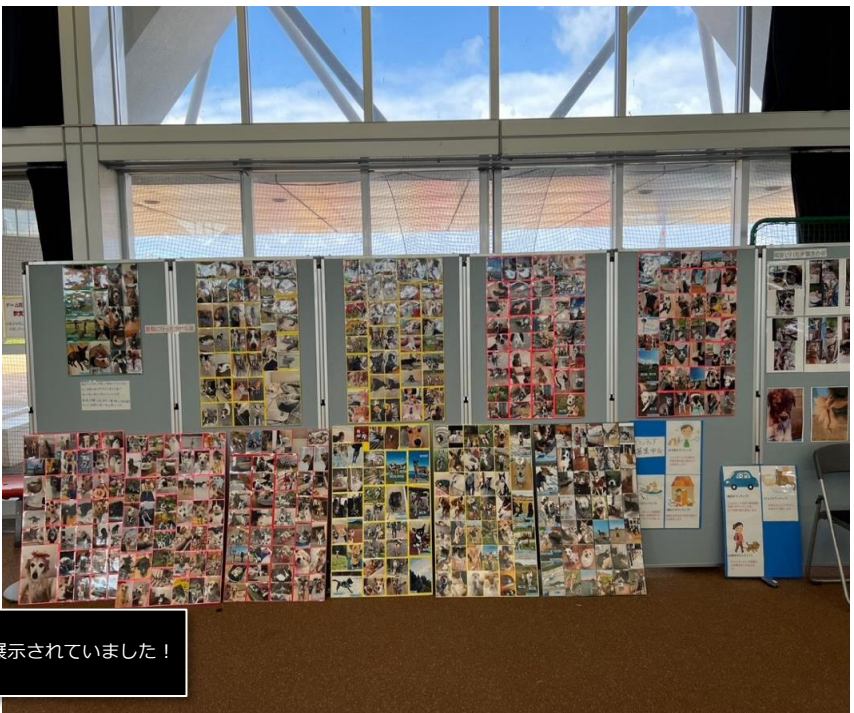
宮古島で保護活動を行っている宮古島動物病院や、保護団体の方々の紹介ブースの様です。
宮古島動物病院が犬猫の避妊去勢手術を行っている救急車の内覧や、
活動内容のご紹介、また保護団体の方々にもご協力いただき宮古島の保護活動などのご紹介をいただきました。

ご来場いただいた方々も、保護の現状や活動内容にとっても関心をもたれていて、熱心に講演をお聴きになっている方もいらっしゃったのがとても印象的でした。

沢山の方々に知っていただくことにより保護動物の問題を少しずつでも改善していけるといいですね。



保護活動のお話。皆様、熱心に聴いてらっしゃいました。



譲渡され幸せになった保護動物たちの写真が沢山展示されていました！

診療時間 (ご予約受付:9:00~20:00。救急は24時間365日対応)

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
09:00~13:00	●	●	×	●	●	●	●
14:00~16:00	○	○	×	○	○	○	○
16:00~20:00	●	●	×	●	●	●	●

●：通常診療、○：完全予約診療
水曜日休診（救急は対応します）
東京都渋谷区本町6-22-3

入院中のご面会

14:00~16:00 | こちらの時間以外をご希望の際はご相談ください。

救急診療



24時間365日救急対応。
獣医師・ケアスタッフが
24時間待機・看護します。

まずは当院へお電話ください。

03-3378-3366

急な体調の変化、怪我など、年間1500件以上の夜間診療を実施しています。深夜でも獣医師2名・ケアスタッフ2名以上が常駐し救急診療および入院看護にあたっています。緊急手術の際は、緊急手術担当の獣医師も駆けつけ増員します。
当院はJAHA（日本動物病院協会認定）認定動物病院です。

下記をお知らせください。

- ご家族様と動物のお名前
 - 症状
 - 動物種（犬・猫・うさぎ・フェレット・ハムスター）、年齢、性別
 - 既往歴
 - 来院時間
- ※現在服用中の薬もご持参ください

ご注意事項

- お問い合わせが集中しているときなど電話がつながりにくい場合があります。お手数ですが、しばらくたってからおかけ直してください。
- 緊急性や重症度の高い動物の対応を優先していますので、状態に応じて順番が前後してしまうことや待ち時間が長時間になることもありますのでご了承ください。
- 緊急時にはお預かりして、救命処置を進めさせていただくことがございます。
- 夜間は保険の窓口清算ができません。各保険会社にお問い合わせください。

アクセス

東京都渋谷区本町6-22-3
都道431号線沿い（白い建物です）

当院の住所「東京都渋谷区本町6-22-3」でナビ案内するとともに、当院の裏通りに案内されることがございます。ご注意ください。
ナビ案内で来院される場合はこちらの住所を入力ください。「渋谷区本町1-62」

